

路面電車で都市再生

兵庫県内のシンクタンク研究員らが提言

震災4年半

ポランティアは今

⑤

JR新神戸駅と神戸駅を路面電車で結ぼう―阪神大震災をきっかけに、路面電車などの新たな交通機関整備を含めたまちづくりを提言する研究グループがある。なせいま、「路面電車復活」なのだろうか？

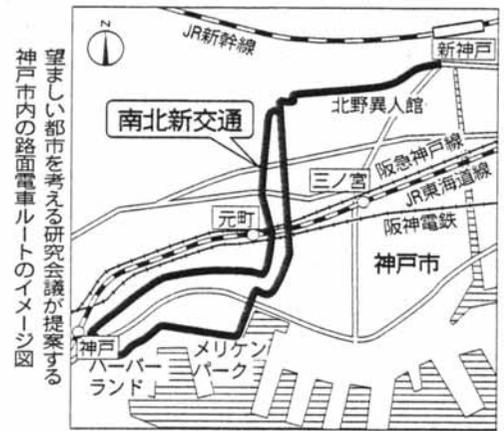
を、北野異人館、元町、ハーバーランドを経由して低床型路面電車（LRT）の「南北新交通」で結ぶ。山手の新神戸駅と海に近い神戸駅。両駅を結んで南北方向の交通が便利になるだけでなく、海から山へ移り変わる神戸の景観の特色をアピールすることができる。都市の魅力アップにも一役買うことができるというわけだ。

人にも環境にもやさしく

「提言は、効率追求と一極集中という、現代の都市構造への反省から生まれた」と、メンバーの福田丞志・21世紀ひょうご創造協会総括理事は語る。「震災時、阪神間に集中する交通インフラが壊滅したことで



佐々木博子



望ましい都市を考える研究会が提案する神戸市内の路面電車ルートのイメージ図

の形成」を発表しており、この中では、宝塚新都市、北神・三田、東播磨、西神、北淡の5地域をLRTで結ぶことが提言されている。いずれのリポートも、38人がそれぞれ本業に追われながらの苦心の作。「シンクタンク機能を結果として復興のためにできることをしよう」と、熱意を傾けた。実際には、LRTという結論を引き出す前に、アンケート調査を通して神戸の都市イメージを分析する作業の方が大変だったと、作

あこがれのまちKOBEBE

- 提言は、効率追求と一極集中という、現代の都市構造への反省から生まれた。
- 都市が働き盛りの年代層中心だった時代は過ぎた。高齢者の視点に立ったまちづくりは世界的な流れではないか。